

# 緑のセンターだより



No.176

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）  
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626  
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 31 年 2 月 1 日

## 講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「果樹のせん定と栽培」リンゴ、サクランボ、プラムなど

とき 平成 31 年 2 月 17 日（日）  
午後 1:00～3:00 定員 50 名  
講師 ふじくらすも果樹園  
代表 増茂 聡さん



**SPECIAL**

～特別出張講座～

- ❄️「植物の病害虫と園芸薬品」
- ❄️ガーデンドクター草間祐輔さんの
- ❄️とても人気のある講習会です。
- ❄️日時：平成 31 年 2 月 28 日（木）
- ❄️午前 10 時～12 時 定員 50 名



「フラワーアレンジメント」**大人気!**

とき 平成 31 年 3 月 3 日（日）教材費 2,000 円  
午後 1:00～3:00 定員 20 名  
講師 マミフラワーデザインスクール 澤沼 雅子さん



イメージ

緑のセンター展示室



アザレア満開



神楽岡公園歩くスキーコース



コースづくり（約 3 km）

おしらせ

歩くスキー無料貸出  
3月初旬（予定）まで



## 展示会のご案内

（初日は午後から、最終日 4 時まで）

「神楽岡公園写真展」3月1日（土）～3月24日（日）

【休館日のご案内】

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日（祝日の場合は翌日）  
11月～ 3月は毎週月曜日が休館日（ " " ）



# 〈園芸の基礎知識〉 植物の花成と開花

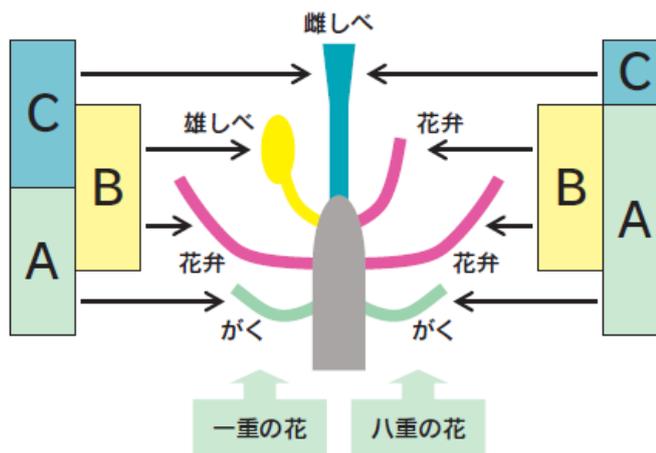
## ～ 花の形のABC ～

### ■花の構造

花を分解してみると、花の種類によって花弁(花びら)、雄しべ、雌しべの数や形が多様であることに気がつくと思います。さらに、花の形には、ひとつの決まった基本構造が存在します。それは、花の外側から内側に向かって、がく、花弁、雄しべ、雌しべがあるという順番の構造です。この構造は、A、B、Cという3種類の遺伝子によって決められており、その仕組みは「ABCモデル」と呼ばれています。

### ■ABCモデルとは

花の外側から順に、A遺伝子だけが働く場所にはがくが、A遺伝子とB遺伝子が働く場所には花弁が、B遺伝子とC遺伝子が働く場所には雄しべが、そして、C遺伝子だけが働く場所には雌しべができます(図左側)。物事の基本を表す言葉として「～のABC」と言いますが、このモデルは、まさに「花の形のABC」です。



花の構造と働いている遺伝子との関係 (ABCモデル)

### ■八重の花の形は

八重の花はどうやってできるのでしょうか。A、B、Cという3種類の遺伝子のうち、A、Cの遺伝子はお互いに働きを牽制しあっています。C遺伝子の働きが突然変異などで弱くなると、それを補うようにA遺伝子が、本来は雄しべのできる場所まで働くようになります。そうすると、雄しべが花弁になって八重の花ができるのです(図右側)。

(参考資料:農研機構花き研究所「花の不思議にせまる」、ソフトバンククリエイティブ「植物学」超入門ほか)

## 緑の相談 QアンドA (50)

アデニウムの鉢植えに花の蕾は付くのですが、蕾近くが黒くなり、小さいと落ちてしまいます。室温は日中で20℃以上はあり、夜温も18℃程度は確保されています。ただ、日当たりを確保するために、室内で置き場所を結構頻繁に変えています。また、水やりは、ほかの観葉植物と同じに与えていますし、肥料は1000倍に薄めた液体肥料を1回施しました。どうすれば蕾が落ちなくなるでしょうか？



アデニウムは、南アフリカやケニアなどの熱帯地域が原産の多肉植物です。花は赤色やピンクなど清楚で美しいものが多く、「砂漠のバラ」と呼ばれ販売されています。熱帯生まれですので暑さには強く、寒さには弱い植物です。生育温度が一年を通して15～20℃確保できれば、休むことなく生育を続けます。冬期に15℃を下回る室温の場合は、5℃以上を確保し断水すると落葉して休眠状態で冬越しできます。ただし、0℃以下では枯れますので注意してください。ご相談の蕾が落ちる原因ですが、1つ目は水のやり過ぎ、2つ目は日照不足と置き場所の動かし過ぎでないかと思われます。水やりは、生育期と違い冬期間は1～2か月に1回程度で良く、やり過ぎで根が傷むことがあっても、乾き過ぎで枯れることはありません。肥料は3月中旬～6月中旬に2000倍希釈の液肥を半月に1回程度施してください。

(参考資料:北海道新聞社「北で育てる魅力の花」ほか)

# 植物の病害虫

## その47 「シクラメン ホコリダニ」



葉の杯症状



花卉の症状



イチゴランナーのとげ

### 1 寄生しやすい植物

イチゴ、シクラメン、セントポーリア、マオ、コウゾ

### 2 被害

若葉では葉面にしわを生じ、後にえそ（組織が腐ってしまうこと）病状となります。中位葉は杯状となり、葉面に顕著な波状を現しますが、症状の進行した株は必ず杯状になるとは限らず、えそを伴った寄形葉となる場合もあります。これらの症状は普通、老葉には認められません。生育初期に加害を受けた株は著しく萎縮し枯死します。また、ランナーにしばしば、とげを生じます。花房に被害を受けると、えそを生じて不稔となり、若い果実は全体に褐変し肥大しません。

### 3 生態

欧米ではイチゴに被害を与える害虫として古くから知られています。日本での被害は、1974年に札幌市において最初に発見されました。道内のイチゴ産地に広く分布しており、一般圃場では苗の更新が遅れている圃場ほど発生が多い傾向にあります。このホコリダニは、主にイチゴの幼芽や未展開葉などの株の深部に寄生し、生息条件として温度15～27℃、湿度80～90%の多湿を好み、1世代を1～3週間で繰り返します。露地ではイチゴの葉わき内に成虫、幼虫態で越冬します。5月中旬ごろから寄生数が増加し、7月下旬に産卵ピークが見られ、さらに9月下旬にも低いピークを示した後、減少し越冬に入ります。

### 4 防除法

- (1) 採苗母本は健全株を用い、隔離圃場で採苗します。
- (2) 被害苗を温湯処理(42～43℃の温湯に30～60分浸漬)し、害虫を死滅させます。
- (3) 収穫終了後の圃場の被害株や定植直前の苗床の被害株を晴天日にポリフィルムのトンネル被覆処理(50～55℃の温度で2時間)を行い、寄生数を減少させます。
- (4) 薬剤防除 ミルベメクテン水和剤(商品名、コロマイト水和剤)を200倍で散布します。  
シエノピラフェンフロワブル(商品名、スターマイトフロアブル)を200倍で散布します。

## 冬と早春のプリムラを楽しむ

### サクラソウ科 プリムラ属

プリムラには 500 種以上の原種があると云われています。パンジーと同様に花色が豊富で、サクラソウに似た色鮮やかな花や、バラ咲きでフリルがある種類もあり、目を引きまします。一般的には晩秋に買って、すぐ枯らしてしまう事もあることから一年草として扱われていますが、旭川でも耐寒性のあるポリアンサ種やジュリアン種を自分で増殖して、春の花壇を毎年飾っている方もおられます。



### …… 鉢植えのプリムラは「暑さ」と「ムレ」に弱い ……

#### 1) 暑いのが苦手……置く場所は日当たりのよい涼しい場所

人間が快適な暖房の効いた部屋は避け、明るい窓辺で涼しい場所に飾ってください。開花中の生育は 10℃前後が適温です。暖か過ぎる環境は、株が弱り、花が早く終わる原因となります。

#### 2) 長く楽しむための…水やりと肥料、花がら摘み

①水やりの回数が多く、鉢土が常に濡れている状態では、根腐れで枯れてしまいます。鉢土の表面が乾いて葉が少し萎れてきたら、たっぷり与えるのが水やりの基本です。また、花や葉に水をかけると痛むので、葉にかけないように株元に給水します。特にマラコイデス種は弱いので底面給水が良いでしょう。

②次々と花を咲かせるので、終わった花はこまめに茎のつけねからハサミで切り取り、市販の緩効性の固形肥料を2ヶ月に1度与え、週に1回薄い液肥(2,000倍)を与えて栄養を補給します。

#### 3) 最高気温が15℃以下になったら再び日当たりで育て、その後、霜が降りる前に室内に取り込む

春先の霜の心配がなくなったら風通しが良い半日陰の戸外へと順次移します。夏の暑さに弱いのですが、無事に夏越しさせた株は9月に植替え(赤玉土6+腐葉土4)します。大きな株に仕立てる場合は、4号鉢以上の通気性のよい素焼き鉢が良いでしょう。また、株分けや種まき、挿し木などで殖やすこともできますが、特に株分けは夏越しに成功した株を手で割くことで簡単に行えるのでおすすめです。

## 展示室の植物 (83)

### ハエマンサス 学名：Haemanthus albiflos ヒガンバナ科 ハエマンサス属

葉を見るとダルマ系のクンシラン？と見間違えますが、花が違います。黄色の花粉がポイントになる直径3~5cmの白い刷毛のような花を咲かせます。別名を「マユハケオモト」。女性の方なら、名前由来はこの花の形状からと容易に推察できることでしょう。

原産地のアフリカに約60種が分布するといわれる球根植物ですが、マユハケオモト(H. albiflos)に代表される冬生育(夏に休眠)タイプと、マルチフロルス(H. multiflorus)のように夏に生育(冬に休眠)するタイプがあります。

